

富山県におけるこどもの居場所づくり支援のあり方の方向性(案)

資料2-3

行政・学校・地域・民間団体等が連携し、
すべてのこどもが安心して過ごせる多様な居場所づくりを進めていくために

課題(現状)

① 情報が届きにくい

- ・居場所の情報が少ない、活動内容がわかりにくい
- ・運営者同士の連携の場が不足

② 居場所を利用する際の負担

- ・利用料の負担
- ・保護者の心理的負担

③ 安定的な資金確保が難しい

- ・財源確保が困難、事務負担が大きい

④ 人材確保・育成が必要

- ・スタッフ不足、研修機会が少ない

⑤ 連携が十分でない

- ・関係機関との連携や居場所同士のつながりが弱い

支援のあり方の方向性

① 情報発信及び連携強化

ウェブ等での発信、学校、福祉、地域等の連携促進、
情報交換や相談できる機会の充実

② 世帯への支援

利用料補助制度の運用面での柔軟な対応について検討、
保護者が悩みを共有できる機会の充実

③ 施設運営への支援

民間資源の活用なども視野に入れながら、地域全体で
居場所を支える環境づくりが期待される

④ スタッフの質の向上

研修機会の充実、運営ノウハウの共有

⑤ コーディネート機能の充実

情報共有、ゆるやかなネットワークの充実

目指す姿

